区分	臨床・専門分野	授業科目名	血液検査学実習	単位数	1
対象学年	2年生	開講時期	前期・(後期)・通年	講義形態	講義・(実習)
担当教員名	今村　文章	実務経験	(有)・無	実務経験内容	三菱鉱業端島鉱病院検査部に5年、健康保険諫早総合病院に34年（計39年臨床検査技師として勤務）。 その間、日臨技血液検査研究班班長などを歴任、 平成15年には認定血液検査技師となる。

授業の目的・目標
止血、凝固、線溶等について臨床検査技師として必要な臨床的意義等を踏まえ、各項目について実習し、疾患との関連を明確にする。

成績評価の方法
出欠状況、授業態度は勿論であるが、質問に対する回答能力も評価したい。最終的には試験での評価とする。

授業の概要・授業方針
各項目について、基礎的な用手法による検査で、試薬の特性や原理等を中心に実習する。

テキスト・参考資料等
教科書（医歯薬出版社）の血液検査学を中心に、試薬等の添付書などを使用。

授業計画	講師
後　期	
第　1講　止血・凝固・線溶　講義と実習：出血時間・毛細血管抵抗試験（陰圧法・用圧法）	今村　文章
第　2講　凝固時間：基礎　全血凝固時間、Ca再加時間	今村　文章
第　3講　凝固時間：外因系　PT（プロトロンビン時間）、 凝固時間：複合因子　TTO（トロンボテスト）・HPT（ヘパプラスチンテスト）講義のみ	今村　文章
第　4講　凝固時間：内因系　APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間） クロスミキシング試験（Bethesda法）講義のみ	今村　文章
第　5講　凝固時間：第3相　フィブリノゲン（トロンビン法）	今村　文章
第　6講　クロスミキシング試験　血友病抗体など	今村　文章
第　7講　凝固阻止機構　アンチトロンビンなど 線溶機構・線溶阻止機構　プラスミノゲン	今村　文章
第　8講　線溶機構・繊維素溶解現象　FDP・D－Dダイマー	今村　文章
第　9講　出血性疾患、血栓性疾患	今村　文章
第10講　予備	今村　文章